

決算からみる名寄市のすがた

平成28年度の決算がまとまり、平成29年第3回市議会定例会で認定されました。
今回の特集では、平成28年度の決算概要と今後の市の財政運営の課題についてお知らせします。

◆問い合わせ

財政課財政係（名寄庁舎3階）☎01654③2111（内線3331・3332）

市民も使える大学図書館が
できたんだね！

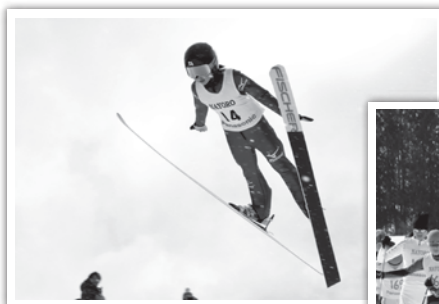


市立大学図書館
(2017年4月4日オープン)



まずは平成28年度を振り返ってみましょう

JOC ジュニアオリンピックカップ
(2017年3月10～12日開催)



スポーツに関するイベントも
いろいろ増えたね！



平成28年度名寄市全体で、どれくらいお金が
かかったのかな？



平成28年度に行った主な事業

- ・乳幼児紙おむつ用ごみ袋支給事業
- ・東児童クラブ整備事業
- ・東小学校校舎改修事業
- ・基幹相談支援センター事業
- ・農業補助労働力確保事業

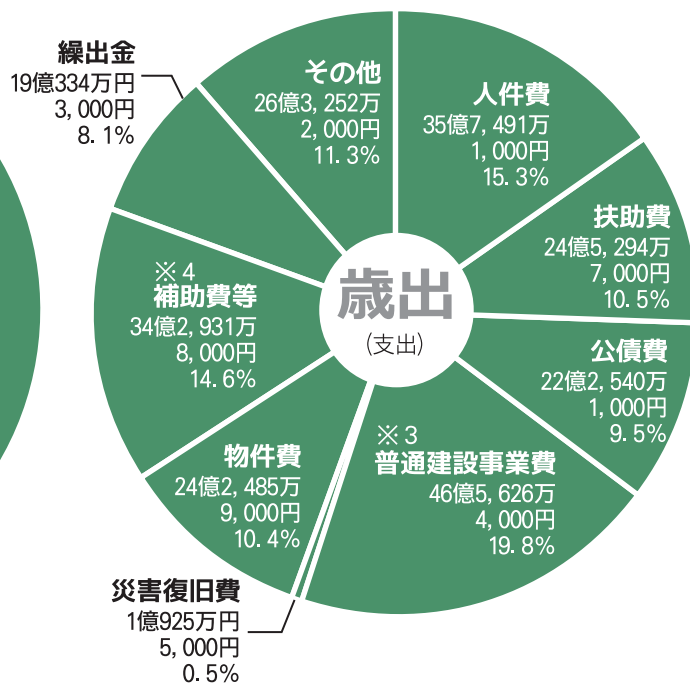
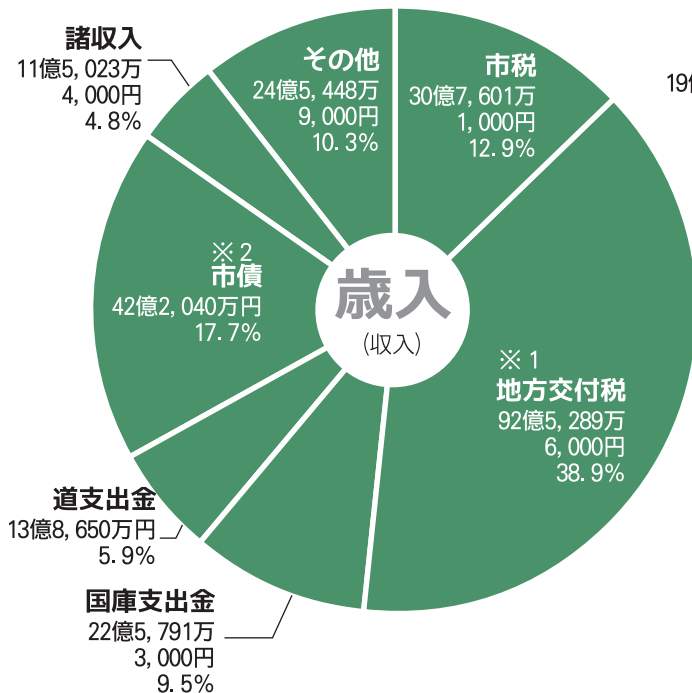
一般会計

教育や福祉など市民サービスを行う「行政運営の基本的となる会計」です。

※決算額は端数処理しています。

237 億 9,844 万 3,000 円

234 億 882 万円



地方交付税(※1)どの地域に住む国民にも一定の行政サービスを提供できるように国から交付されるお金。
 市債(※2)建設事業等に充てるための債務。
 普通建設事業費(※3)道路や橋、建物等の公共施設の建設に使ったお金。
 補助費等(※4)市立病院や水道会計への負担や、さまざまな団体への補助金など。

決算の状況はわかったけど、名寄市の財政はどうなの？

一般会計の実質収支

歳入決算額 237 億 9,844 万 3,000 円 - 歳出決算額 234 億 882 万円 - 次年度へ繰越 4,167 万 2,000 円

実質収支 = 黒字 3 億 4,795 万 1,000 円



特別会計・企業会計

特別会計 特定の事業やサービスを提供するために、利用者の保険料や使用料を財源にして運営する「使い道が決まっている会計」です。

企業会計 自ら経営を行って、そこで得た財源で運営する「民間企業と同じように経理をする会計」です。

区分		歳入決算額 (A)	歳出決算額 (B)	差引額 (A-B)
特別会計	国保 保険事業勘定	35億7,698万6,000円	35億2,378万4,000円	5,320万2,000円
	国保 直診勘定	2億948万9,000円	2億948万9,000円	—
	介護 保険事業勘定	23億7,001万6,000円	23億2,304万6,000円	4,697万円
	介護 サービス事業勘定・名寄	2億2,434万3,000円	2億2,434万3,000円	—
	介護 サービス事業勘定・風連	1億71万2,000円	1億71万2,000円	—
	下水道事業	10億7,014万2,000円	10億7,014万2,000円	—
	個別排水処理施設整備事業	8,253万4,000円	8,253万4,000円	—
	食肉センター事業	1,414万9,000円	1,414万9,000円	—
	後期高齢者医療	3億6,942万9,000円	3億6,942万9,000円	—
	企業会計	病院事業会計	98億1,707万7,000円	100億1,644万9,000円
水道事業会計		6億5,682万1,000円	6億5,411万9,000円	

2 名寄市の財政は健全?

健全化判断比率

地方公共団体の財政状態の健全性を表す指標として「財政健全化判断比率」があります。

財政破たんを未然に防ぐために4つの指標があり、信号で例えると、黄色信号と赤信号の2つの基準があります。

本市では、昨年度に引き続き早期健全化基準(黄色信号)を下回り、健全な水準にあるといえます。

4つの指標

①実質赤字比率

一般会計の赤字の比率

※家計でいうと年収に占める赤字の割合

②連結実質赤字比率

全会計(一般会計、特別会計、企業会計)の赤字の比率

③実質公債費比率

地方債(借金)の返済比率

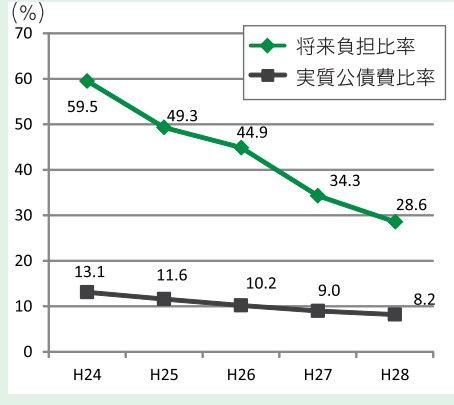
※家計でいうと年収に占める借金の返済額の割合

④将来負担比率

市の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性があるお金の割合

※家計でいうと負債残高が年収の何年分になるかの割合

実質公債費比率と将来負担比率の推移

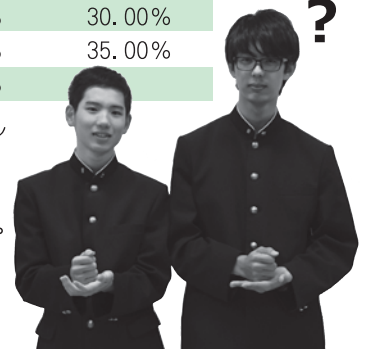


平成 28 年度決算の財政健全化判断比率

指標名	名寄市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
①実質赤字比率	-	12.99%	20.00%
②連結実質赤字比率	-	17.99%	30.00%
③実質公債費比率	8.2%	25.00%	35.00%
④将来負担比率	28.6%	350.00%	

※「-」表示は実質赤字額がないことを表しています。
平成28年度の決算では、いずれの指標も早期健全化基準を下回り、安全圏にあります。

青信号だったんだね!



市債残高が増えても青信号?

公営住宅、市立大学図書館などの公共施設や、道路整備などのため、市債を発行したことから、平成28年度末の一般会計の市債残高(借金)は、昨年度と比べておよそ22億円増え、277億9416万4000円となっています。

市債残高の増加は、将来に支払わなければならないお金が増加したことを意味します。

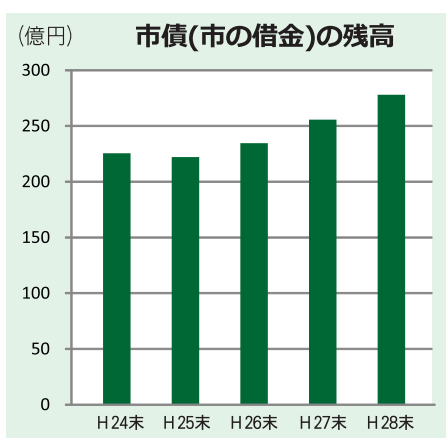
しかし、将来負担比率は、平成27年度末から比べて5.7ポイント改善しています。将来負担比率は小さくなるほど将来の負担が小さいことを意味します。どうしてこのようなことが起きるのでしょうか?

これは、将来負担比率の計算方法に理由があります。将来負担比率とは市債等の負債額から基金や、将来交付される地方交付税の金額を差し引いた実質的な負債と、市の財政規模を比較したもので、実質的な負担の割合を表しています。

市債にはさまざまな種類があり、借入額や返済額に応じて地方交付税が交付される市債とそうでない市債があります。

地方交付税が交付される市債の割合が高くなると、たとえ市債残高が増えたとしても、実質的な負担の割合は下がることがあります。

合は下がることがあります。平成27年度と平成28年度を比較すると、市債の残高が増えていますが、基金残高や市債借入額に同じ地方交付税として将来入るお金が増えているので、将来負担比率は改善されました。



いろいろな仕組みがあるんだな~



公共施設の老朽化の状況

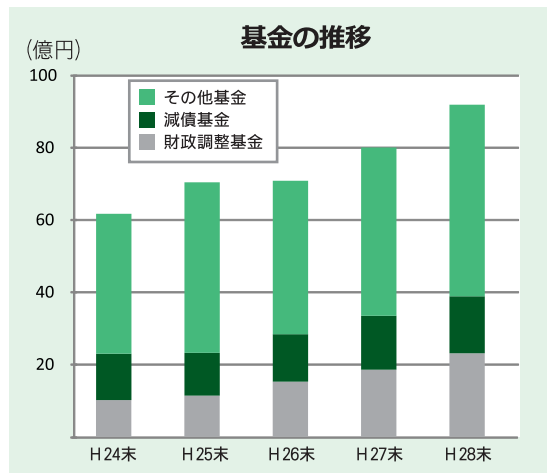
建築年	施設名	経過年数
昭和42年	児童センター	約50年
昭和43年	市役所名寄庁舎	約49年
昭和45年	図書館名寄本館	約47年
昭和49年	スポーツセンター	約43年
昭和50年	南保育所	約42年
昭和51年	智恵文小学校	約41年
昭和52年	名寄中学校	約40年
昭和53年	東保育所	約39年
昭和56年	名寄東中学校	約36年

これまでみてきたとおり、平成28年度の名寄市の財政状況は安全圏にありますが、老朽化が進んでいる公共施設への対応、少子高齢化による社会保障施策に要する経費の増加、さらには地方交付税の削減と、本市には多くの財政的課題があり、これらはどれも容易に対応ができるものではありません。

名寄市の課題



市債(借金)が増えていても、基金(貯金)も増えているんだね



そのような課題に備えてこれまで基金を着実に増やしてまいりましたが、人口減少に伴う税収の減少が懸念される以上、今後、限られた財源の中で、多様なニーズに効率的に対応していかなければなりません。そのためには、社会の変化に合わせた適切な事業の選択と、事業を行うための目的を明確にし、最小の経費で確実に効果をあげることが意識し、財政規律を損なわないような事業の手法をよく検証することが重要です。

また、地方債や基金の残高を適正に管理し、将来世代に過大な負担を引き継がないよう、持続可能な財政運営を続けていかなければなりません。

これからも市民と行政との協働によるまちづくりを将来にわたって進めていくためにも、効率的で健全な財政運営に努めてまいります。

持続可能な財政運営が大事なんだね!



協力：名寄高校新聞局の皆さん
(広報のあり方検討委員会委員)

決算の詳しい内容は市ホームページをご覧ください
[名寄市 決算](#)